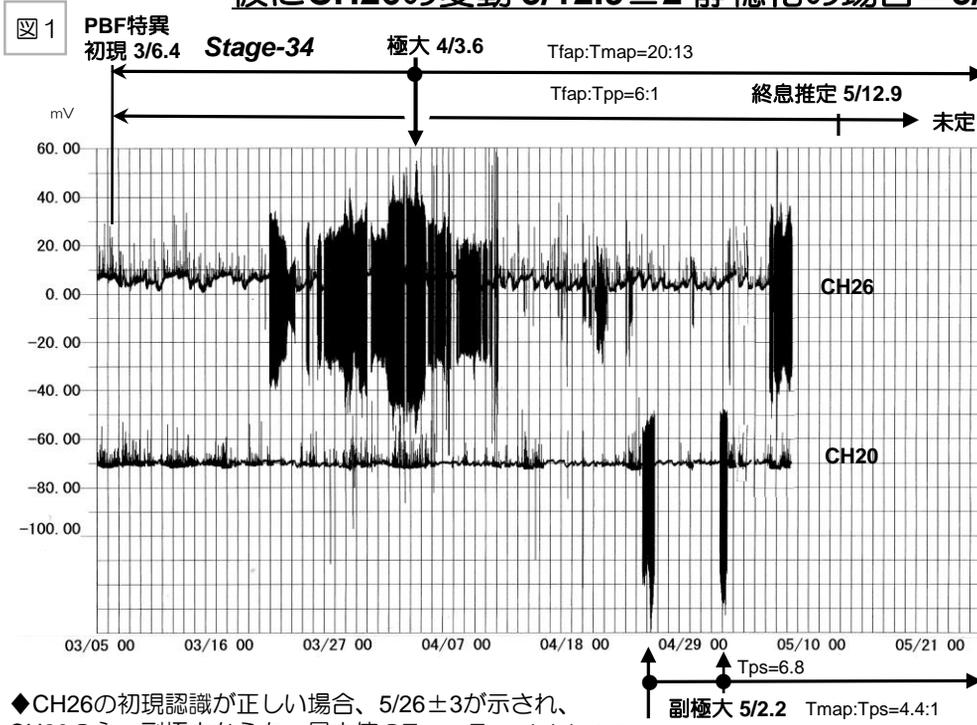


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

### No1778長期変動 CH20 主副極大型観測で再考 早い場合でも 5/13 迄変動継続 仮にCH26の変動 5/12.9±2 静穏化の場合=5/26±3 発生の可能性

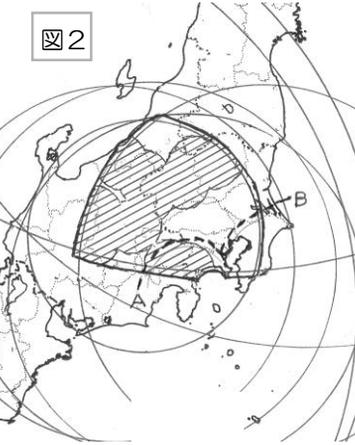


◆図1下基線のとおり、CH20に2度に渡り顕著特異変動が観測されました。主・副極大の可能性が考えやすい。主極大の方が幅（時間）が長いので、Tmap:Tps比は平均の3.7:1より、4:1近似となり、4:1では5/22±3、最大値の4.4:1では5/25±3となります

◆5/8の午後現在、CH26の特異変動が継続していることからCH26-PBF特異の3/11初現認識は誤りと考えられます。次いで可能性が高いのは3/6です。3/6.4のPBF特異出現開始を初現としますと、5/26±3 発生の可能性が示唆されます。

◆CH26の初現認識が正しい場合、5/26±3が示され、CH20の主・副極大からも、最大値のTmap:Tps=4.4:1 主極大 4/25.4 使用で5/25±3が示されることから、5/26±3発生の可能性が現状考えやすいこととなります。右枠内に、5/26～5/29までの期間に発生となる場合の変動終息時期を計算して記しました。実際の終息を観測して発生時期を定める所存です。

CH26静穏化	計算上の
5/12.9 →	5/26
5/13.7 →	5/27
5/14.4 →	5/28
5/15.1 →	5/29



- 推定領域：図2の太線領域内＝大枠推定領域 図2斜線域＝可能性が考えやすい推定領域 震央が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3 または 複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等 Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性 ※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい。
- 推定時期：5/12.9±2に変動静穏化の場合＝5月26日±3 の可能性が現状考えやすい 実際の変動終息を観測し、修正し続報します。

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震  
○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3  
※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難 ※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。

A～B弧線以南の可能性は極めて低い